第二回　家庭教育学級をふりかえって

家庭教育学級委員長　久延　志真
副委員長　原田　幸子

９月２８日（金）に、第二回家庭教育学級が開催されました。今回は「知っておきたい 子どもたちの性の現実　～小学生の親として、子どもに伝えておくこととは？～」をテーマに、東京都助産師会いのちの教育委員・岩佐寛子様にご講演いただきました。たくさんお話いただいた中から、ごく一部ですがご紹介いたします。

★性教育とは“生きるための教育”　手洗いなどと同じで、小さいころからの積み重ねが大切。

[中学３年生・高校１年生へのアンケートからわかること]
性に対する無知、自分は大丈夫（自分は妊娠しない・させない）という根拠のない自信（特に男子）。
例：性で感染する病気があること（中３卒業前アンケートで「知らない」が約 80%）
性に関して「わからない」→「放っておく」が一番多い。

［性被害の現状］　出会い系を通じては減っている。交流サイトを通じては増えている。
［子どもたちの心の現状（15 才対象）］　「孤独を感じる」…29.8%（先進国 27 か国で１位 / 平均 7.4%）
スマホ所有率　小学生 29.9% 中学生 58.1%　高校生 95.9%　※つながっている気持ちがほしい
使ってはダメ！ではなく、なぜそれを使いたいのかを考える・聞くことが大切

＜すてきな人生を送るためには＞
・自分を大切にする（自分を知る）
・相手のことも思いやる（相手の立場になって考える）
→お互いを思いやり、いたわりあえる

＜家庭でできる命のはなし＞
子どもときちんと向き合おう
・子どもの質問は突然やってくる
・出産のときの話や子育てエピソードを温かい口調で語ろう
・「あなたに会えてうれしかった」メッセージを発信しよう
・性に興味を持ち始めたころに「命をつなげていく大切な行為である」ことを伝えていこう

［性に関して質問されたら…］
「なんでそう思ったの？」「あなたが知りたいことをくわしく教えて」
→“この子はいったい何を知りたいのか？”を捉えることが大事。
その場で答えにくいときは、「あなたの質問は受け取った、また今度答えさせてね」というメッセージを送る
低学年には出産のときの話、名前を考えた時の話（由来）などで十分。
自分は大事にされてきたんだという思いが、相手を大切にしようという思いにつながる

＜子どもたちの性的自立を支援するためには＞
・子どもときちんと向き合おう（家庭で話す場を持とう）
・日頃から性についての考えを子どもに伝えよう（おふろなど、日常の中で伝えるといい）　例：「ゴシゴシ洗わないよ」「ふくときは前から後ろに（←女の子）」
→性器などは大事なものと認識させる

講演の様子

講演では、実際の「命の授業」の内容も紹介。受精、妊娠中（胎児期）から出産まで、実際の胎児の大きさのぬいぐるみや子宮の様子を表すエプロン、動画、写真などを使い、わかりやすく教えてくださいました。

［命の授業で伝えるメッセージ（一部）］
生を受けて誕生するまで【250 兆分の１】の確率！ ここにいることが奇跡的／お産はお母さんの頑張りだけではない。君も頑張ったから生まれてきたんだよ／自分一人でここにいるわけではない。命はつながっていて、そしてつないでいくもの。

●参加者の感想（一部抜粋）　その子が何を知りたいかに耳を傾けるには、日々のコミュニケーションが大切だと改めて感じました／家庭で性について聞かれたら「どうしてそう思ったの？」と本人が知りたいことは何かをまず聞くと、答えやすいと言うことがわかり、参考になりました／生きるための教育、命を繋げていく大切な行為、そう捉えるだけでとても話しやすく、考えやすくなりました／日常の中で（例えば清潔面の視点や、出産時のエピソードを話すなど）いろいろなアプローチの仕方があることがわかりました

次回の家庭教育学級は 11 月 29 日（木）に開催いたします。『一生お金に困らない子どもの育て方』等の著者・たけやきみこ様に、「お金の教育」をテーマにご講演いただきます。皆様、奮ってご出席くださいますようお待ちしております。